

## インド・韓国紙芝居セミナー訪問記

中平順子

今年三月下旬にインドのバラナシ大学とネール大学の二校、五月には韓国ソウル近にある培花女子大学・梨花女子大学・高麗大学・明知大学・明知専門大学・仁川大学を訪問しました。

インドはネール大学マンジュシュリー・チョウハイン教授のお招き。韓国は培花女子大学の祭京希教授により、国際交流基金ソウル日本文化センターの助成事業として行われました。どちらも紙芝居を通して日本の文化と日本語を学ぶという日本語学科の学生向けのセミナーでした。

紙芝居の歴史を伝え、観客参加型と物語完結型紙芝居を実演し、紙芝居の特性と形式を話し、作品の奥底にある作家のメッセージの読み込みも深めました。作品への楽しく深い感動と生身で向き合うコミュニケーションの双方向性など、育ちあう空間として紙芝居を生き生きととらえていました。どの大学も、日本語教育に役立つばかりでなく、文化としての豊かな広がりを感じましたと思えます。

アテンド役の学生たちは、みな日本語をしっかりと話し、心からの歓迎の気持ちで接してくれ、大学の先生方も笑顔で紙芝居とともに楽しんでいました。

紙芝居は人と人を心でつなぐ豊かな広がりを生み出す“出会い”の文化です。そこには国も国境もありません。

(運営委員・埼玉)

韓国 明知大学校 日語日文学科の学生たち



インド『二度と』の実演に見入る学生たち

